イタリアの雪観光向け宿泊収入、2026～2027年に63億9,200万ユーロの見通し

Jfc観測所は前シーズン比7.4%増を予測。ANSAが報じたホテルおよびホテル以外の宿泊施設の数値に基づく

2026年11月10日（火）



ANSAが11月10日火曜日に報じた数値によると、イタリアの雪観光に関連する宿泊部門は、2026～2027年の冬季に収入が増加し、売上高は前シーズンの59億5,100万ユーロから63億9,200万ユーロに達する見込みだ。

この予測は、イタリアの山岳観光地にある宿泊事業者の収入が4億4,100万ユーロ、約7.4％増加することを示している。ANSAが伝えたところによると、予測を発表したのはJfcのイタリア山岳観光観測所だ。

宿泊に関する数値には、雪観光に関連するホテルとホテル以外の宿泊施設の双方が含まれる。対象となるカテゴリーは、ホテル、観光用レジデンス、別荘、農村部の宿泊施設など、冬季に山岳地帯を訪れる旅行者が利用するさまざまな宿泊施設だ。

ANSAによると、収入の数値は来たる冬季の予測であり、59億5,100万ユーロは前シーズンの実績を示す。つまり、2026～2027年の予測値と、その前年に終了したシーズンの実績を比較している。

同じ報道では、冬季観光経済の他の分野について、より緩やかな成長も予測している。飲食、小売、レジャーサービスの合計収入は、14億2,000万ユーロから14億5,700万ユーロに増加し、3,700万ユーロ、率にして2.6％の伸びが見込まれる。ANSAが伝えた数値ではこれらのサービスが一括されているため、増加分を飲食店だけに帰属させることはできない。

報じられた数値は、イタリアの冬季山岳観光市場の規模を示しており、宿泊が依然として主要な収入源となっている。ただし、宿泊収入の増加が予測される要因は、入手可能な情報からは分からない。数値は名目額で示されており、インフレ調整は行われていない。

そのため、予測される増収のうち、旅行者数の増加、滞在期間の長期化、顧客層や宿泊施設の構成変化ではなく、客室料金の上昇による部分がどの程度なのかなど、いくつかの点は明らかになっていない。ANSAが伝えた情報には、地域別、リゾートエリア別、宿泊施設の種類別の内訳もなかった。

ANSAは、予測の出所としてJfcのイタリア山岳観光観測所を挙げたが、元となる報告書全文はすぐには入手できなかった。同報告書がないため、2026～2027年の予測の基礎となる方法論、前提、需要シナリオを独自に検証することはできなかった。